

東京都受託事業

東京都ナースプラザ



東京都ナースプラザ所長
佐藤 浩子

令和2年度の振り返り

令和2年度はコロナ禍の影響を大きく受けました。

研修事業は研修会定員を見直し、6月以降、東京都のガイドラインに沿った感染拡大防止対策を実施しながら研修会を開催しました。8月以降、長期研修の一部にオンライン研修を導入し、1月の緊急事態宣言下では、ほぼオンライン研修に変更しました。

復職・定着事業は事業の開始が例年より2～3か月遅れてのスタートとなりました。また、感染回避目的で活動が抑制され、参加病院数・研修受講者数・保健医療圏会議の実績は減少しましたが、復職支援研修では、受講者の就業率は上昇、アウトリーチ型支援ではZoomを用いたサテライト研修を開催し、地域ネットワークの活発化を図ることができました。

普及啓発事業では、「一日看護体験学習」を中止した代わりに、感染症対策を講じた上で、高校生対象の「一日看護体験セミナー」を開催しました。

ナースバンク事業では、コロナ禍でも就業による支援を申し出た看護職を「コロナ支援者」として登録しました。また、緊急に看護職を必要とする医療機関や行政の求人を「コロナ特化求人」として「eナースセンター」の他にナースプラザホームページの特設コーナーにも掲載し、その都度「コロナ支援者」へ一斉メールを送信するサービスも実施しました。

新型コロナウイルス感染症の影響は次年度も続くと予測されるため、オンライン研修の開催は必須と考えています。研修事業については大幅な研修計画の見直しを行い、就業支援研修の他、定着促進研修として看護職キャリア継続を支援する研修を開催します。復職支援研修は病院体験コース・施設体験コースに再構築され、アウトリーチ型支援は支援施設規模を拡大してネットワーク研修も行っていきます。

ナースバンク事業は、次年度も、新型コロナウイルス感染症に関連した看護職の確保への対応は継続して求められるため、迅速に細やかな対応を継続していきます。

東京都は、「看護師等の人材確保の促進に関する法律」に基づき、医療施設等に従事する看護職員を確保するため、「東京都ナースプラザ」を設置しています。公益社団法人東京都看護協会は運営を受託して、離職中の看護職の再就職相談やあっせん、再就職に役立つ研修、看護についての普及啓発活動を行っています。

事業概要

東京都内で看護業務に従事する看護職員の質・量を確保する

● 就業の促進

- ・ ナースバンク事業
- ・ 看護職員地域確保支援事業

● 定着の促進

- ・ 研修事業
- ・ 看護職員定着促進支援事業

● 普及啓発の推進

- ・ 普及啓発事業



主な取り組み

● ナースバンク事業

- ・求人求職相談の充実による就業促進
- ・看護職員地域確保事業との連携強化による再就業・定着促進
- ・多様な働き方を支援する取り組みの推進

● 研修事業

- ・就業意欲を高める研修の充実
- ・資質向上のための研修の充実
- ・定着促進への研修科目・内容の充実

● 普及啓発事業

- ・一日看護体験学習実施
- ・情報誌「やっぱり看護が好き」発行

● 看護職員地域確保支援事業

- ・復職支援研修「手厚くしっかり体験コース」
- ・復職支援研修「気軽にさくっと体験コース」

● 看護職員定着促進支援事業

- ・アウトリーチ型定着促進（中小病院巡回訪問）の実施
- ・集合研修型定着促進支援
- ・勤務環境支援センターとの連携

令和3年度主な事業計画

● ナースバンク事業

● 研修事業

● 普及啓発事業

● 看護職員地域確保対策事業

● プラチナナース就業継続支援事業（新規事業）

看護職支援と確保という使命に向けて、 サービス向上と事業の拡充に努めていく

東京都ナースプラザでは、「看護師等の人材確保の促進に関する法律」に基づく看護師確保事業を東京都から受託し、看護職の就業促進や看護の魅力を伝える普及活動など、さまざまな事業を展開しています。

今回はナースプラザ事業に携わる職員が令和2年度の活動や、新たに始まった取り組みなどについて振り返りました。



(写真左から) 滝口 珠子 研修係長、佐藤 浩子 東京都ナースプラザ所長、高島 千恵 確保係就業協力員、増山 有希 ナースバンク係長、秋山 恭子 庶務係長、中村 智子 プラチナナース支援係長

コロナ禍を受けて、 改めて看護職確保の重要性を体感

佐藤：令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、計画に沿った事業展開が難しかったと思います。まずは各係の事業内容と、大変だった点や工夫された点について教えてくださいいただけますか。

増山：ナースバンク係は、看護職の就業相談と就業継続相談、そして看護職を目指す方々の資格取得相談など看護職

に特化した無料職業紹介事業を行っています。令和2年度は医療のひっ迫や看護師不足が大きな問題になりましたが、ナースバンクとしても迅速な人材確保に奔走した1年でした。クラスターが発生した病院へナースバンクから人材確保支援したことをきっかけに、コロナ対応への支援看護職の登録が新たな取り組みとして始まりました。

また、年に8回開催している「ふれあいナースバンク就職相談会」については、感染予防対策や事前予約制などを導入し、新しい形で継続して活動しています。

滝口：研修係では、離職中の看護職の再就労支援をはじ



佐藤 浩子 東京都ナースプラザ所長



増山 有希 ナースバンク係長

め、中小規模の医療施設、訪問看護ステーション、高齢者福祉施設などに勤務する看護職を対象とした無料の研修を開催しています。令和2年度は55科目188回の研修を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、そのうち25回は中止せざるを得ませんでした。どうしても対面でなければならない研修については、定員数を大幅に見直し、受講前の健康チェックなど感染症対策を徹底した上で実施していました。その後は対面とオンラインを取り入れ、1月からはほぼオンライン研修に切り替えています。

振り返ってみると、改めて研修で何を学ぶべきか見直す機会にもなりまし、オンラインだからこそ研修に参加できるという方も増え、成果も感じられる1年でした。

高島：私たち確保係では、東京都の看護職員の安定的な確保と、就業の継続支援の2つを事業の大きな柱としています。昨年は20か所の病院で離職中の看護職の就労支援を目的とした研修を開催しました。例年約120名前後参加しますが、昨年度は66名と半数に減少しています。ただ、参加者のうち33名が就職につながり、皆さん高い意識を持って参加してくださったんだなと感じています。コロナ禍という環境の中で、研修を受け入れてくださった病院にもとても感謝をしています。

また、中小規模病院を対象に、1年間かけて人材育成や職場の環境改善などに取り組む「アウトリーチ型定着促進支援事業」では、緊急事態宣言期間中は病院訪問ができず、2か月遅れでのスタートになりましたが、なんとか期間内に課題を解決することができたと思っています。

コロナ禍を受け、私たちも研修にオンラインシステムを導入しました。今後もオンライン配信技術のレベルアップが必要ですが、今までとは違う形で研修ができたことはと

ても良かったと思っています。

秋山：庶務係は、看護に関する理解と関心を高めていただくために、学生向けのパンフレット作成や配布、看護職の再就職を応援する情報誌「やっぱり看護が好き」の発行など、さまざまな情報発信を通して「看護の魅力を伝える広報」を目指しています。

毎年5月と夏休みには、看護職を目指す学生さんや社会人を対象に一日看護体験学習を実施しています。平成31年度は1,885名の方にご参加いただきましたが、昨年度は緊急事態宣言により中止せざるを得ませんでした。これに代わって9月と11月に開催したのが高校生を対象とした「高校生のための一日看護体験セミナー」です。予想以上に応募者が多かったため、参加できなかった方に向けて、講演会の様子や看護の仕事がわかる動画を作成し、東京都ナースプラザYouTube公式チャンネルにて配信を行いました。参加してくださった方からは、参考になったというお声もいただき、開催して良かったと思っています。

新たにプラチナ世代の キャリア継続を支援する事業がスタート

佐藤：たくさんの苦労がありつつ、成果もあった1年でしたね。今年は事業の大幅見直しが行われ、新たに「プラチナナース就業継続支援事業」が始まりました。プラチナナース支援係の中村係長から、新しい事業についてお話しいただけますか。

中村：これまで東京都ナースプラザでは、中高生や子育て世代など、いろいろな年齢層での看護師確保に取り組んできましたが、さらなる看護職員確保推進に向けて、令和3年



滝口 珠子 研修係長



秋山 恭子 庶務係長



中村 智子 プラチナナース支援係長



高島 千恵 確保係就業協力員

4月から50歳以上のプラチナ世代を対象とした「プラチナナース就業継続支援事業」がスタートしました。定年退職をきっかけに潜在看護師になることも多いプラチナナースですが、退職前から定年後のことを考え準備することで、キャリアの継続を支援することを目的としています。キャリアコンサルタントの方を講師に迎えたセミナーの開催や、病院や介護施設での職場体験会、就職相談会などを行っています。

佐藤：ありがとうございます。令和3年度が始まりましたが、いまだコロナ禍は収まらず……といった様相です。苦労もあるかと思いますが、令和3年度事業を開始してみて、皆さんの感想や意見をお聞かせください。

中村：まずは「プラチナナース」という言葉の定着を目標に、コロナ禍2年目を迎えた今は、オンライン等も駆使して、セミナーや職場体験会などを何があっても開催する、という姿勢で事業を進めていきます。

増山：2025年には高齢化に伴い、看護師が大幅に不足すると言われています。新型コロナウイルスの感染拡大は、コロナ対応やワクチン接種のための人員など、看護職の就業者が増加したという一面もありました。この方たちを潜在化させず、定着して就業していただくための支援を継続することも大切なことだと思います。

滝口：オンラインでの研修も慣れてきましたので、今後はさらにオンライン研修の内容を充実させていきたいと思っています。特に今年度入職した新人は、コロナの影響で学生時代に十分な実習ができなかったため、職場適応の遅れや看護実践能力の低さが課題となっている、といった声も届いています。少しでも補完できるよう、追加の研修を計画しているところです。

時代に合わせた方法で、 看護職の確保・定着における課題解消を目指す

高島：私たちが実施している復職支援研修では、カリキュラムの見直しがありました。病院体験コースは3日・5日に凝縮されたほか、ご自身のスケジュールに合わせていつでも研修に参加できる1日コースを新たに設けています。

また、病院以外の施設に就職する看護職も増えているこ

とから、訪問看護ステーションや診療所などの施設で研修を行う1日・3日の施設体験コースも始まっています。

後半に向けては、ワクチン投与や抗体カクテル療法など社会の要望に合わせた演習が組めるように、工夫しながら研修の内容を考えていきたいと思っています。

秋山：今年度は5月と8月に81施設のご協力によって一日看護体験学習を開催することができました。

今回はコロナ禍での開催ということもあり、皆さんが安心して参加できるよう、受け入れ施設にアンケートをとって3つの取り組みを考えました。1つ目は体験日の2週間前から体調をチェックして、当日持参していただく「健康観察表」の導入。2つ目は希望施設には参加者にPCR検査を事前に受けてもらい、陰性結果の提出、3つ目は初めてオンラインによる一日看護体験学習を行いました。

さまざまな課題がありましたが、合計で581名の中・高生、社会人の方に参加していただきました。未来のナースを育てるためにご協力いただいた受け入れ施設の皆さまに感謝しています。また、参加してくださった皆さまには、この体験をぜひ将来に活かしていただけたらうれしいですし、今後も夢を応援できるような企画を考えていきたいです。

佐藤：皆さん、ありがとうございました。東京都ナースプラザの事業は、看護師確保という使命に向かって、互いに協力しながら進めていくことが必要だと改めて思いました。引き続きよろしくお願いします。

